

ミニトマト周年出荷可能性分析委託業務

委託元:豊橋市 調査実施:(公社)東三河地域研究センター

1. 業務の目的

本市におけるミニトマト栽培は生産者や農業団体、農業関連企業の努力や連携により高い技術力を誇り、ミニトマトの品質、物量の両面で卸売市場や小売店などからも高い評価を頂いている。

しかしながら、本市におけるミニトマトの出荷時期は10月から6月までとなっており、夏場のミニトマト生産は冷涼な地域でしか実現が出来ず、市内での生産は難しい状況にある。

一方でミニトマト生産者の中には、豊橋での規模拡大が難しいことを鑑みて、将来的に中山間地でのミニトマト栽培を検討したいというニーズがある。

このため、本市ではミニトマト技術革新研究会を立ち上げ、当地および中山間地におけるミニトマトの生産についての現状分析、事例研究、技術研究、経営分析等を実施する。また、豊橋市内のミニトマト生産者が中山間地で規模拡大し、夏秋ミニトマトを生産するための栽培モデルの検討および将来のシミュレーションを実施する。

2. 調査結果の概要(数値は、各機関のホームページ等公表数値を使用)

(1) 豊橋市内における冬春ミニトマトの栽培モデルの検討

- ・平成25年度のJA豊橋の冬春ミニトマトの出荷量は4597tであり、愛知県の35%、全国の4%のシェアを占める。また、JA豊橋の冬春ミニトマトの作付面積は40aであり、10a当たりの出荷量は11.5tと愛知県数値より2.8t(32%)、全国数値より6.1t(112.9%)高い。
- ・平成25年のJA豊橋の冬春ミニトマトの販売額は26億12百万円であり、1kg当たり平均568円の市場価格、1会員当たり平均1964万円(部会員数133名)の売上規模となる。

(2) 中山間地における夏秋ミニトマトの栽培モデルの検討

- ・JA愛知東の年間の夏秋ミニトマトの出荷量は215t(H25のJA豊橋の4.7%)、販売金額は1億45百万円(同5.6%)、1会員当たりの売上額は296万円(同15.1%)(部会員数49名)、平均単価は674円/kg(H25のJA豊橋より106円高い)である。
- ・先進地である北海道仁木町のJA新おたる仁木町ミニトマト生産組合の平成27年の夏秋ミニトマトの出荷量は1758t(ジュース含む)、販売額は15億32百万円、作付面積は37.5a、部会員数73名である。10a当たりの出荷量は4.7t(H25のJA豊橋の41%)と単収は少ないが、1人当たりの作付面積は5.1反(同1.7倍)と大きく、平均単価は871円/kg(H25のJA豊橋より303円高い)と高いことから、1人当たりの平均売上額は2099万円(H25のJA豊橋は1964万円)と、JA豊橋の1人当たり売上額より約百万円多い。

(3) 中山間地モデルの検討と経営分析の実施

- ・経営分析等から夏秋ミニトマトを中山間地で栽培する経営上の可能性(利益)を見出すことができた。
- ・実際に中山間地でミニトマト栽培を行う場合、短期間での雇用確保が困難、経営規模の拡大に伴う融資限度、異なる品種の出荷時の取扱い方法(ブランド)、施設環境(仕様)等の課題が明らかになった。